

1 調査目的

認知症は、誰もがなる可能性のある脳の状態です。茨城県においては、認知症高齢者は 2025 年に 65 歳の人口の約 5 人に 1 人、2035 年に約 4 人に 1 人になることが推測され、家庭や地域で身近な存在となっていくことが予想されます。

県では、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会を目指して様々な施策を推進していますが、より効果的な施策にしていくため、県民の方が認知症に対して持っているイメージ等をアンケート調査することにしました。

2 結果の概要

<認知症に対する理解>

- ・認知症の人との関わりについては、多くは親族にいるなど、身近に認知症の人がいる一方、関わったことがない人も 27.7%いるなど、関わりが全くない人も一定数いることが分かった。
- ・認知症の症状について知っている人が 71.5%おり、症状についての認知度が高いことが分かった。
- ・症状について知らない人の多く（52.3%）は、認知症の人に対する接し方や認知症の症状についての関心が高く、認知症の人に対する上で基本となる事項を知りたいということが分かった。
- ・多くの人（52.9%）は、施設等に入所している、医療や介護サービス等を利用しているなど、認知症の人は何等かの支援を受けているというイメージを持っていることが分かった。
- ・認知症の人を見かけた際の対応については、多く（77.2%）が手助けすると回答した一方、自主的に手助けしたいと回答した人は全体の 26.7%に留まるなど、手助けの意思がある人は多いが、自主的に対応できる人は一部であることが分かった。

<認知症に対する県の施策>

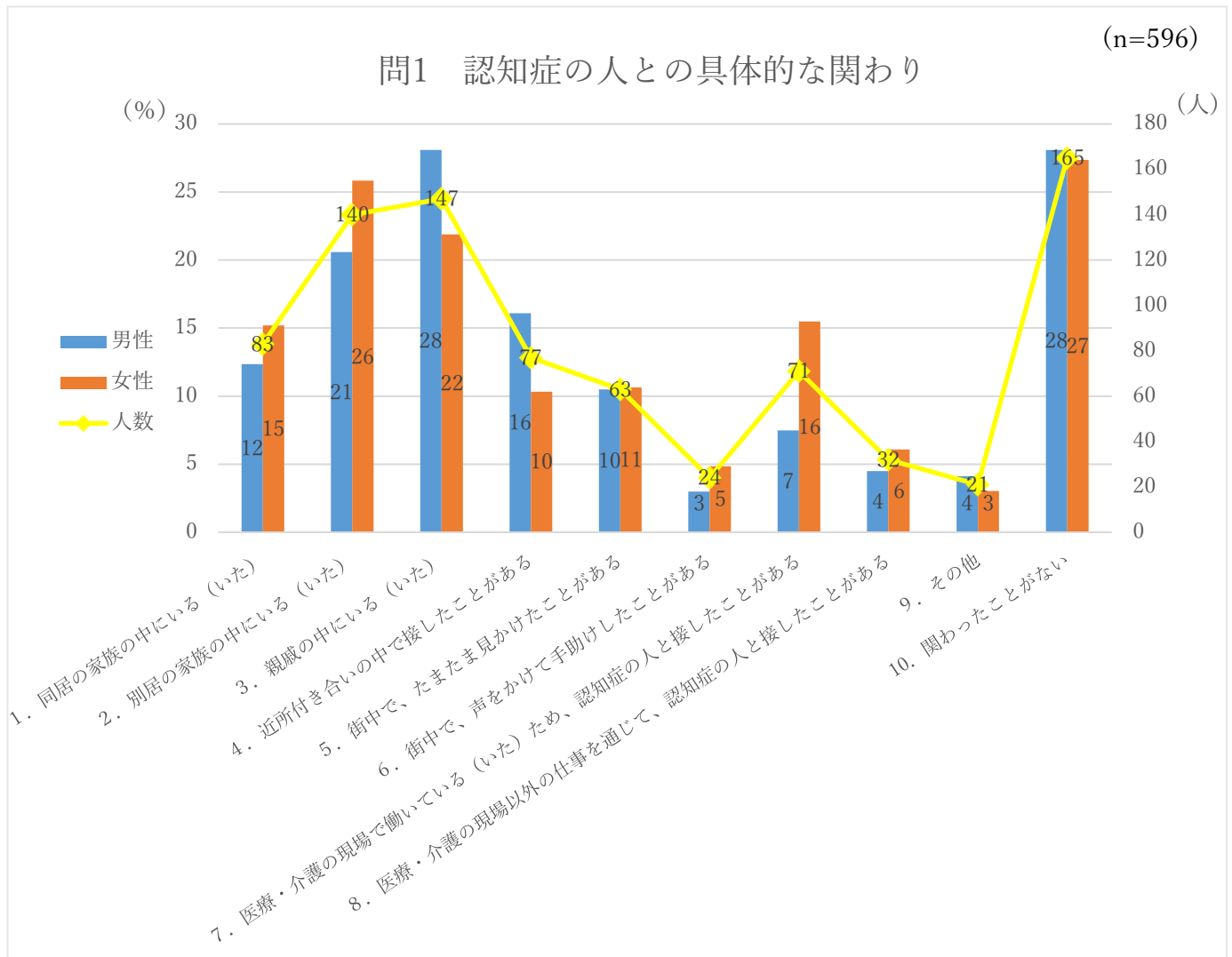
- ・「認知症サポーター」については、38.8%が養成講座を受けたいと回答するなど肯定的な意見がある一方、受けたいと思わない、特に興味はないなど否定的な意見も同程度（44.0%）あることが分かった。
- ・「茨城県認知症の人にやさしい事業所」については、95.5%が知らないと回答しており、認知度が低いこと、84.4%がいい取り組みと回答したほか、51.7%が利用したいと回答するなど、肯定的な意見が多いことが分かった。

<認知症の人に対する支援>

- ・認知症になった場合は、介護施設等で必要な介護や支援を受ける、医療・介護サービスを利用するといった、家族や地域の人以外からの生活支援を望む人が多い（66.6%）ことが分かった。
- ・地域で暮らす認知症の人に対する支援策としては、見守り、声掛け、話し相手など、簡易的な関わりによる支援は可能と考える人が多いことが分かった。
- ・認知症の人やその家族に対して、介護家族に対する支援や介護サービスの拡充を希望する回答が多く、認知症の人の介護に対する直接的な支援を望む人が多いことが分かった。

【問1】（認知症の人との具体的な関わり）

あなたは、これまで認知症の人とどのように関わったことがありますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。



○「認知症の人との具体的な関わり」の機会としては、「3.親戚の中にいる (いた)」147 人が最も多く、次いで「2.別居の家族の中にいる (いた)」140 人、「1.同居の家族の中にいる (いた)」83 人、「4.近所付き合いの中で接した」77 人が多かった。

○親族の中に認知症の人がいる (いた) という項目（選択肢 1～3）が上位 3 つを占める結果となった。

○一方、「10.関わったことがない」は 165 人であり、全回答者のうち 27.7%であった。

○なお、男女差に有意な差はみられなかった。

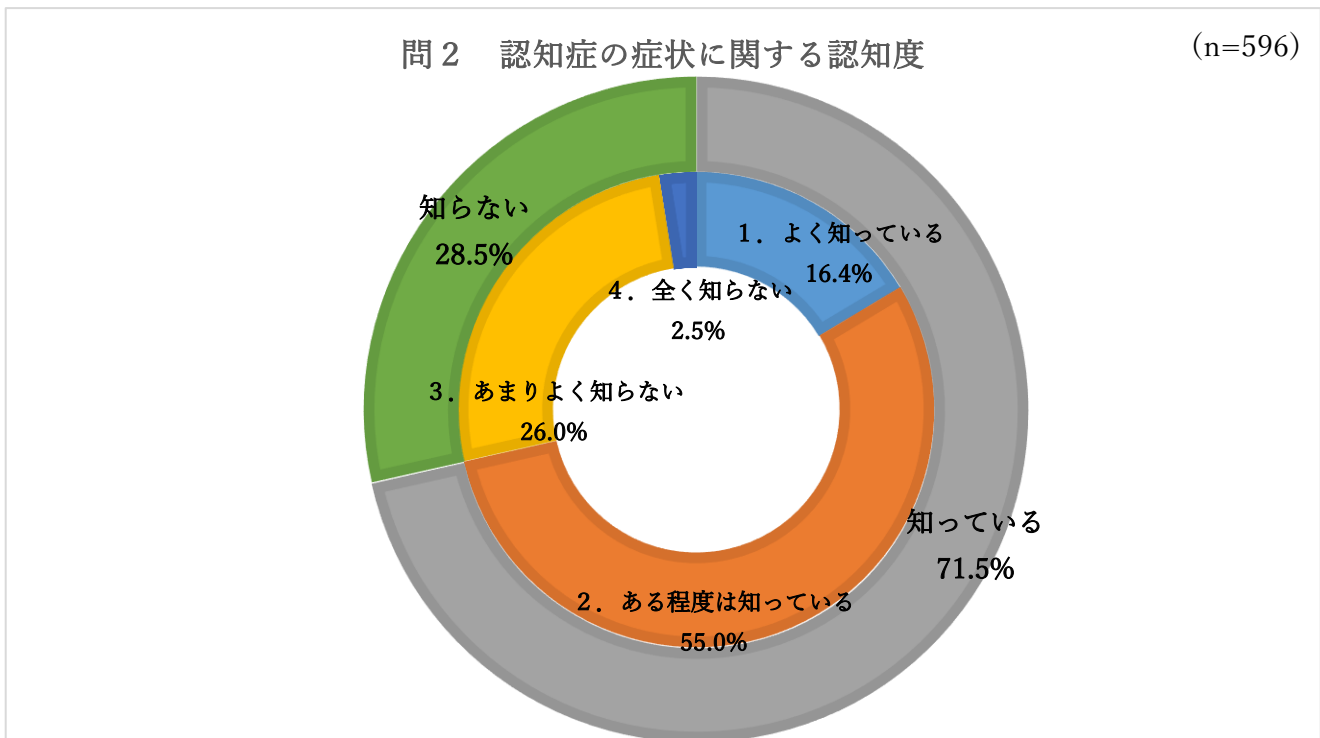
<その他の回答>

- ・高齢者施設にボランティア講師で伺い接している
- ・高校の課外学習で施設訪問した
- ・民生委員としての活動時に認知症の人と接したことがある
- ・まちなかでそれらしい人を見ても認知症なのか、他の疾病に分類されるのかわからない。
- ・保育園児だったとき、保育園の隣に介護施設があったため、認知症の人と接したことがある。

など、21 件のご意見がありました。

【問2】（認知症の症状に関する認知度）

あなたは、認知症の症状について知っていますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

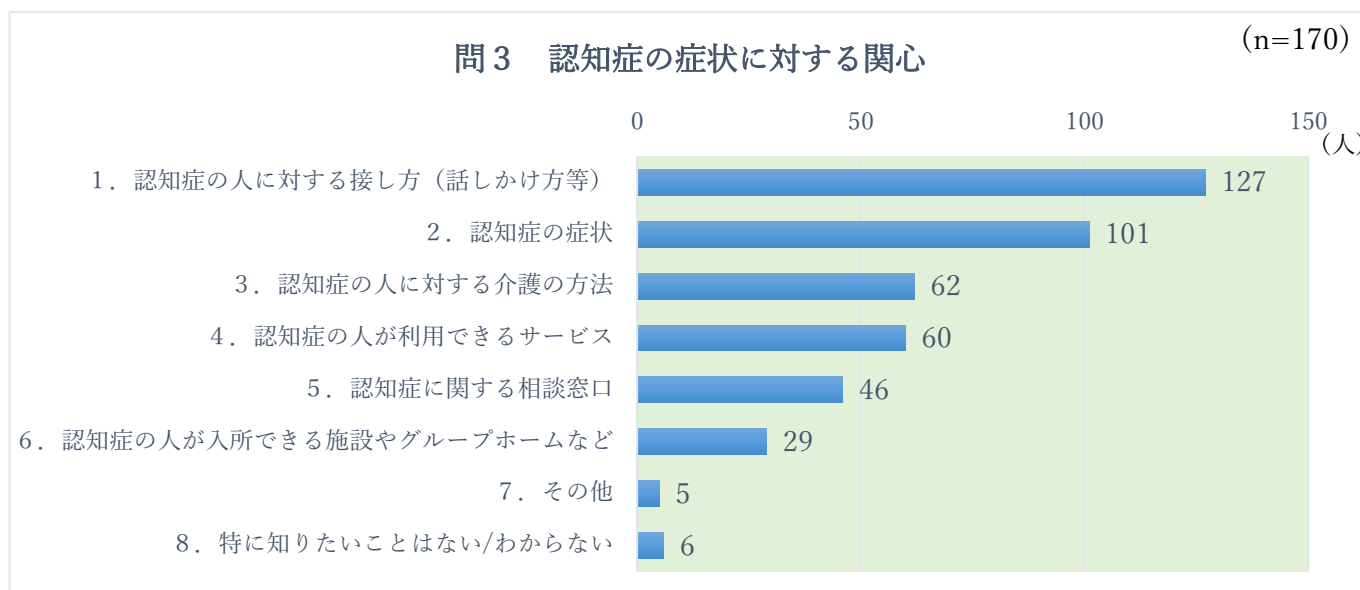


- 「認知症の症状に関する認知度」については、「知っている」71.5%、「知らない」28.5%であった。
- 内訳は「知っている」が「1.よく知っている」16.4%、「2.ある程度は知っている」55.0%、「知らない」が「3.あまりよく知らない」26.0%、「4.全く知らない」2.5%であった。

【問3】（問2で「3.あまりよく知らない」、「4.全く知らない」と回答された方へ）

（認知症の症状に対する関心）

あなたは、認知症についてどのようなことを知りたいですか。次の中から、特に当てはまるものを最大3つまで選んでください。



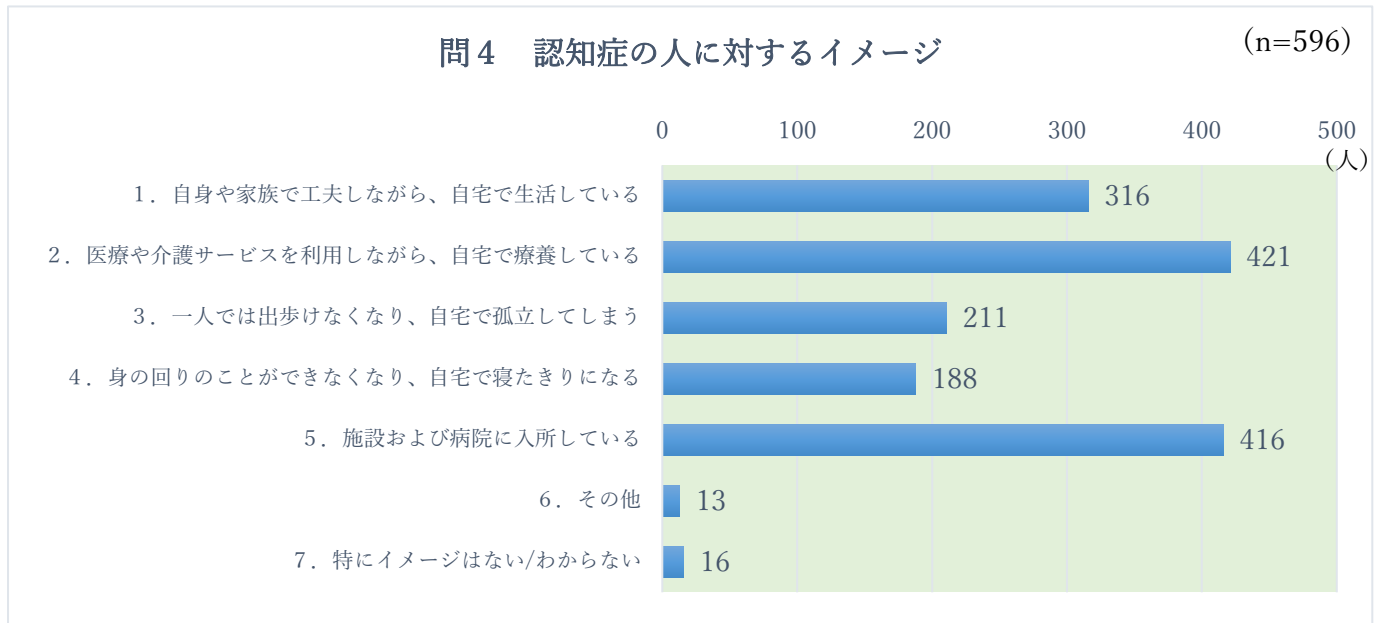
- 「認知症の症状に対する関心」については、多い順に「1.認知症の人に対する接し方（話しかけ方等）」127人、「2.認知症の症状」101人、「3.認知症の人に対する介護の方法」62人、「4.認知症の人が利用できるサービス」60人、「5.認知症に関する相談窓口」46人、「6.認知症の人が入所できる施設やグループホームなど」29人、「8.知りたいことはない/わからない」6人、「7.その他」5人であった。
- 認知症に係る基本項目（選択肢1及び2）が上位2つを占める結果となった。

<その他の回答>

- ・ 認知症（徘徊等）をみたときの連絡先
- ・ 社会的問題になっているから予備軍などの対策をする必要があるので、知識は知っておくべきと考える。
- ・ 治療の方法について
- ・ これ以上進まない様にするために出来ること。受診出来る専門の病院。
- ・ 認知症かどうかの判断を依頼できる機関がどこにあるか、また依頼方法など、5件のご意見がありました。

【問4】（認知症の人に対するイメージ）

あなたは、認知症の人はどのように生活していると思いますか。次の中から、あなたのイメージに近いものを全て選んでください。



○「認知症の人に対するイメージ」については、多い順に「2.医療や介護サービスを利用しながら、自宅で療養している」421人、「5.施設および病院に入所している」416人、「1.自身や家族で工夫しながら、自宅で生活している」316人、「3.一人では出歩けなくなり、自宅で孤立してしまう」211人、「4.身の回りのことができなくなり、自宅で寝たきりになる」188人、「7.特にイメージはない/わからない」16人、「6.その他」13人であった。

○医療や介護サービス、施設等、何等かの支援を受けているという項目（選択肢2及び5）が上位2つを占める結果となった。

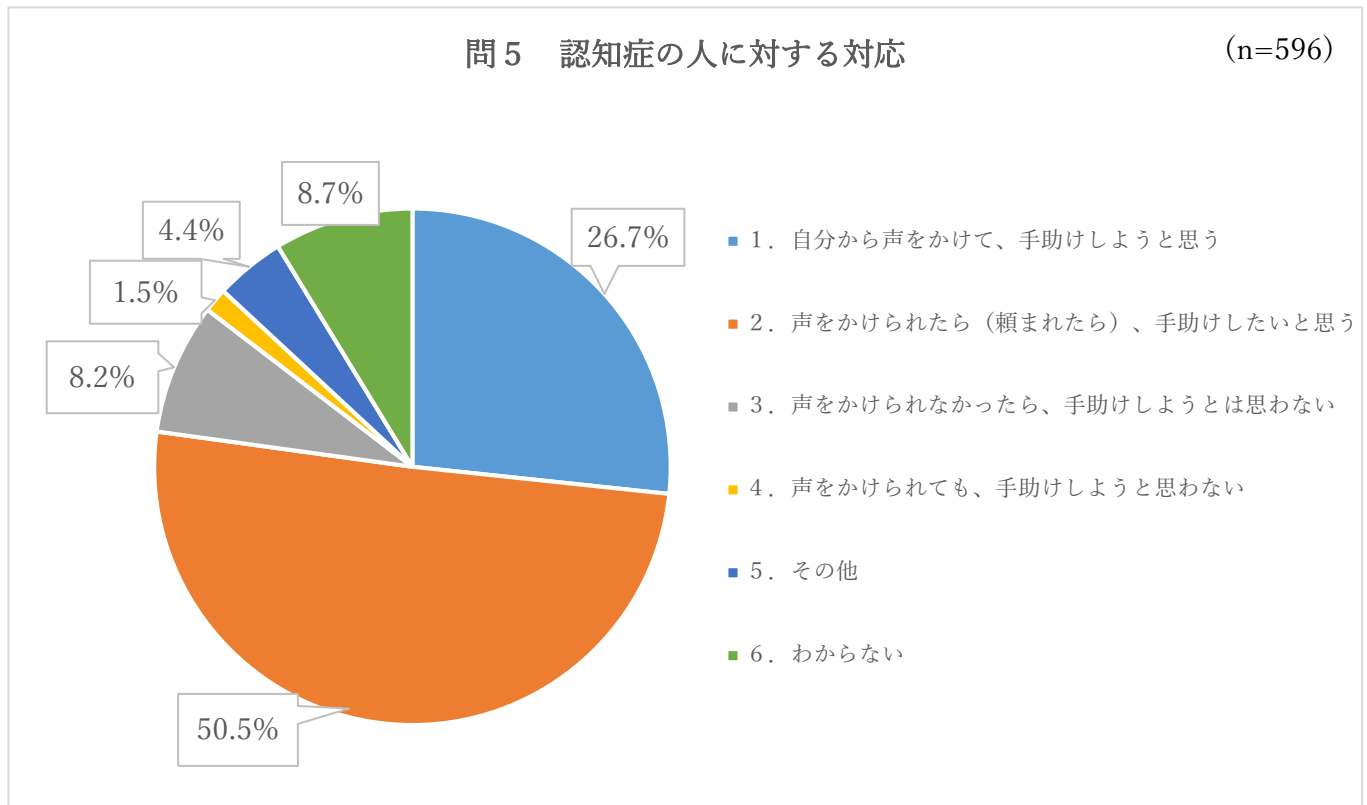
<その他の回答>

・よく救急車で運ばれていたり、暴言暴力をはいたりはかれたりする。訪問販売などにひっかかってしまう。

など、13件のご意見がありました。

【問5】（認知症の人に対する対応）

あなたは、認知症かもしれない人を見かけたらどのように対応しますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。



○「認知症の人に対する対応」について、手助けをしようと思う回答は、「2.声をかけられたら（頼まれたら）、手助けしたいと思う」50.5%、「1.自分から声をかけて、手助けしようと思う」26.7%であった。

○手助けしようと思わない回答は、「3.声をかけられなかったら、手助けしようとは思わない」8.2%、「4.声をかけられても、手助けしようと思わない」1.5%であった。

<その他の回答>

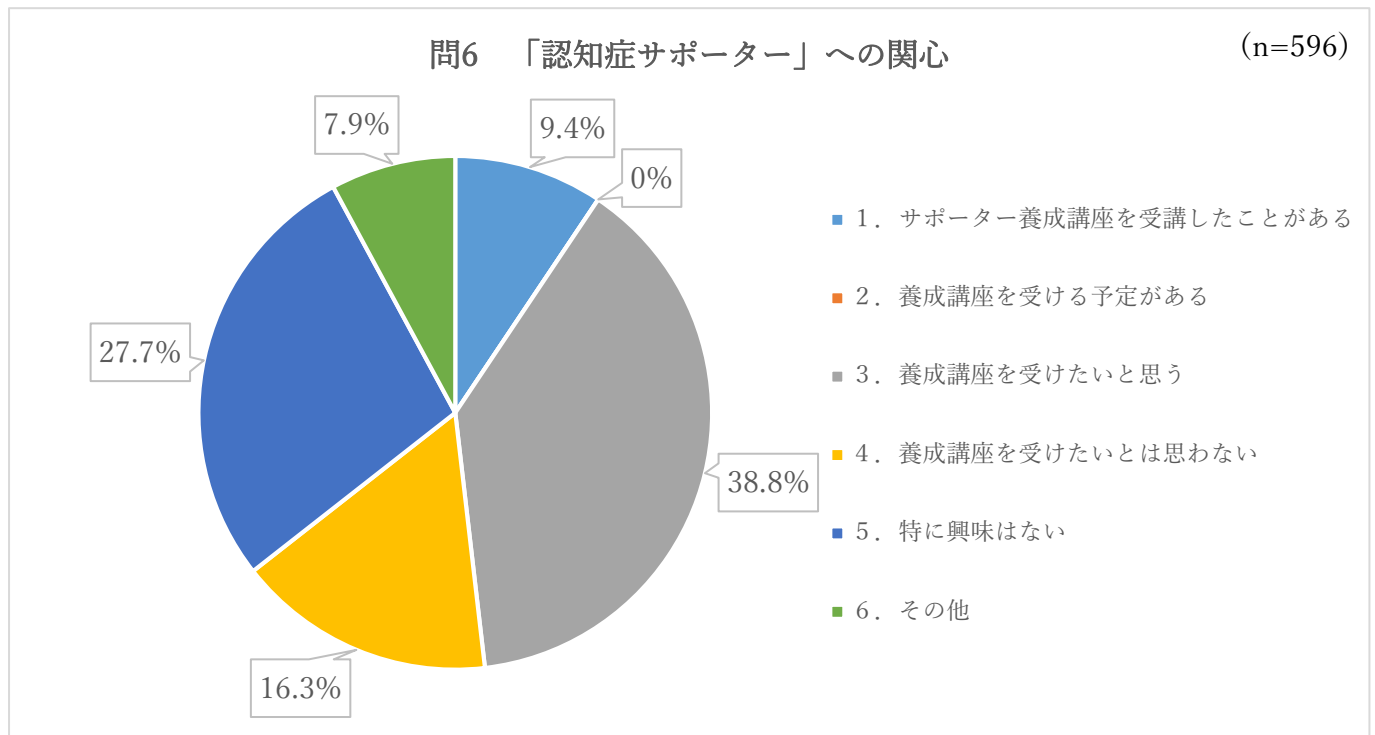
- ・何か困っている様子があれば、手助けしようと思う
- ・助けてあげたいと思うが、怒りだしたりされたら、怖い。
- ・裸足で歩く、夜中に一人でなど、明らかに異常な行動をしていれば警察に通報する。
- ・私が障害者なので手助けなどはできそうにない
- ・サポートセンターがわかれば連絡する
- ・正直、認知症かどうかを判断することは難しいと思う。
- ・症状やその重症度によって対応は異なるので、その時の状況によって答えは変わります。
- ・様子を見て、店員さんや警察などに助けを求める。

など、26件のご意見がありました。

【問6】（「認知症サポーター」への関心）

あなたは、「認知症サポーター」（※1）についてどのように思いますか。次の中から、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

（※1）「認知症サポーター」とは：市町村等が開催する「認知症サポーター養成講座」を受講し、認知症の症状や適切な対応等についての知識を有する人。地域で認知症の人をサポートする役割を期待されている。



○「『認知症サポーター』への関心」について、肯定的な回答としては「3.養成講座を受けたいと思う」38.8%、「1.サポーター養成講座を受講したことがある」9.4%、「2.養成講座を受ける予定がある」0%であった。

○否定的な回答としては、「5.特に興味はない」27.7%、「4.養成講座を受けたいとは思わない」16.3%であった。

<その他の回答>

- ・身の回りに認知症の人がいないので、今のところ必要性を感じていない。
- ・高齢者なのでサポーターには向かない。
- ・養成講座を受けた事はないが対応は出来ている
- ・興味はあるがなかなか機会がない
- ・「認知症サポーター養成講座」があることすら知らなかった。

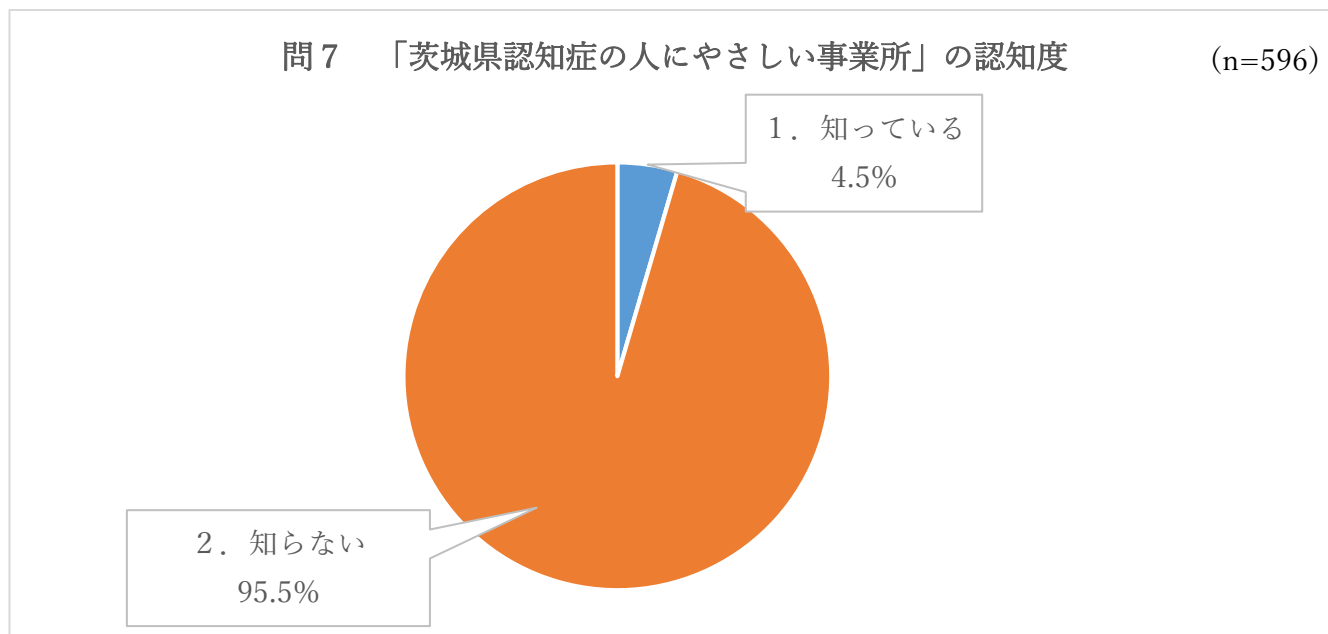
など、47件のご意見がありました。

【問7】（「茨城県認知症の人にやさしい事業所」の認知度）

あなたは、「茨城県認知症の人にやさしい事業所」（※2）を知っていますか。知っている場合は、そのきっかけをご記入ください。

（なお、知ったきっかけを覚えていない方は、「わからない」とご記入ください。）

（※2）「茨城県認知症の人にやさしい事業所」とは：認知症サポーター養成講座を受講、または受講者と同等の知識を持つ人が一人以上勤務し、認知症の人に対して会計のお手伝いや、ゆっくり丁寧に説明するなどの対応を一つ以上している事業所。金融機関、スーパーマーケットや理美容所等、日常生活で利用する機会の多い店舗等を中心に県が認定。



○「『茨城県認知症の人にやさしい事業所』の認知度」については、「2.知らない」95.5%、「1.知っている」4.5%であった。

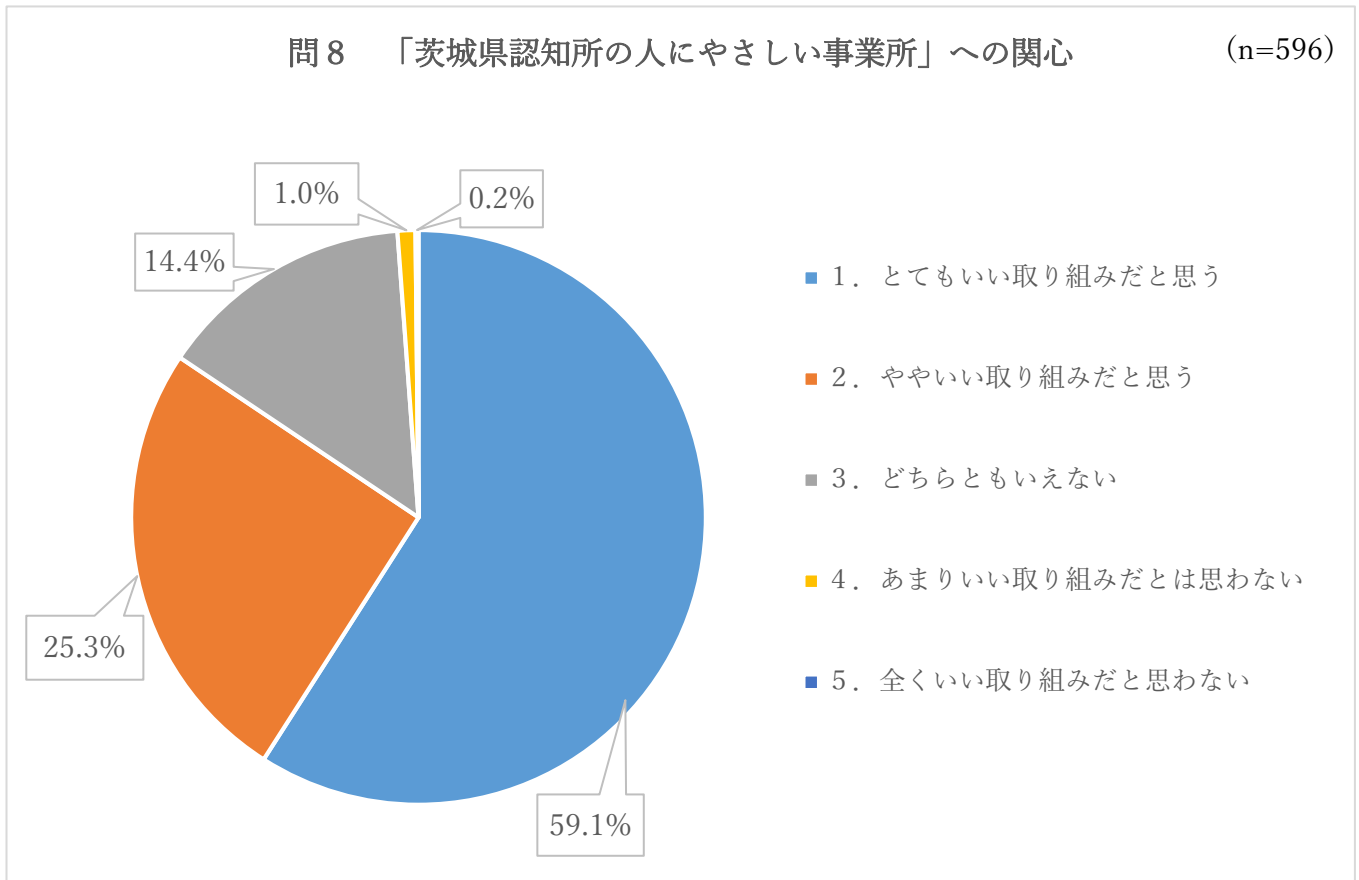
<知っているきっかけ>

- ・勤務先が認定事業所であり、業務を担当している
- ・WEB検索をした時に知った
- ・高齢者の会合で、認知症講演会に参加して
- ・広報などで見た
- ・スーパーの入口にステッカーがあった
- ・知り合いにサポーターをしている人がいる。

など、27件のきっかけの記載がありました。

【問8】（「茨城県認知症の人にやさしい事業所」への関心）

あなたは、「茨城県認知症の人にやさしい事業所」について、どのように思いますか。次の中から、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。



○「『茨城県認知症の人にやさしい事業所』への関心」について、肯定的な回答としては、「1.とてもいい取り組みだと思う」59.1%、「2.ややいい取り組みだと思う」25.3%であった。

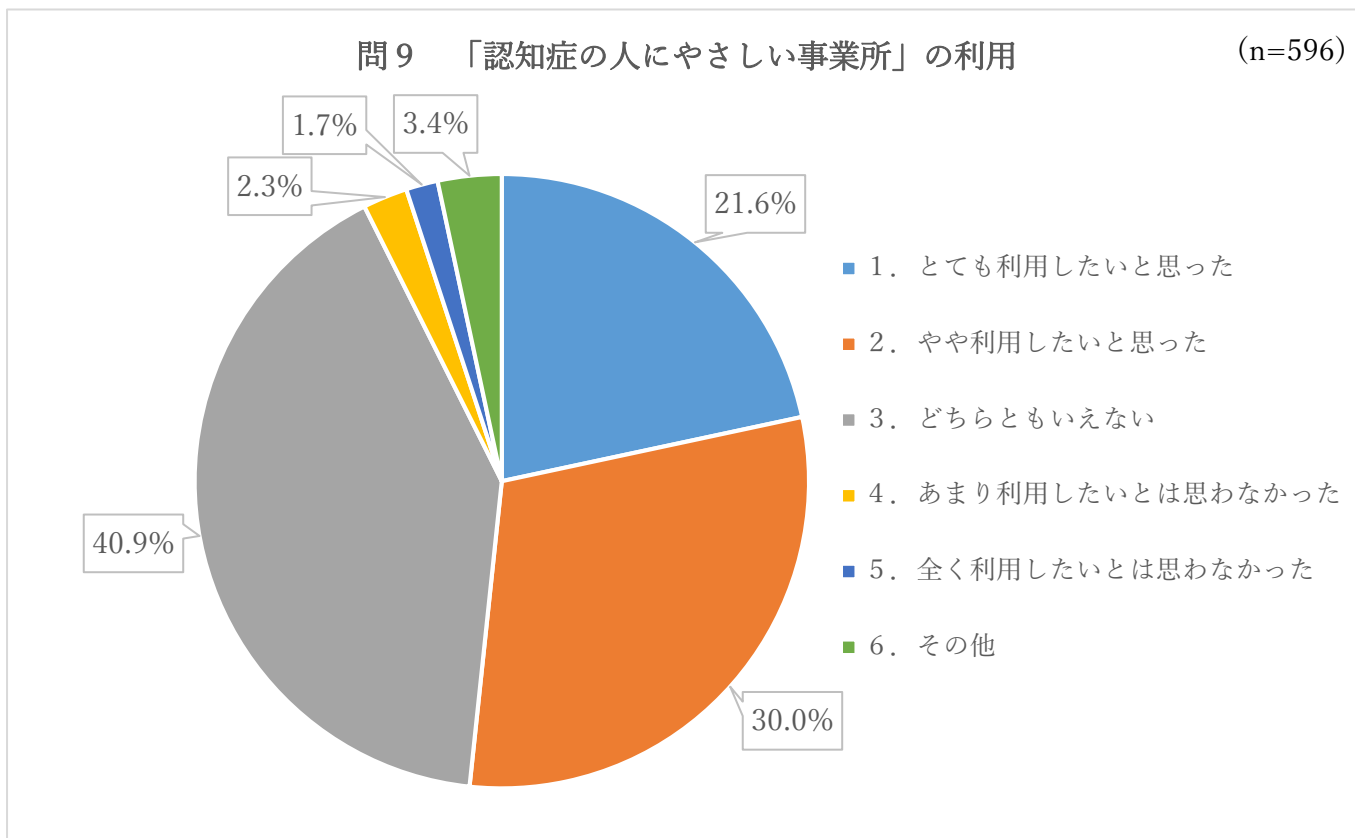
○否定的な回答としては、「4.あまりいい取り組みだとは思わない」1.0%、「5.全くいい取り組みだと思わない」0.2%であった。

【問9】（「茨城県認知症の人にやさしい事業所」の利用）

「茨城県認知症の人にやさしい事業所」では、下記のステッカーを提示しています。

(<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/chofuku/choju/ninchi/images/sticker.jpg>)

あなたは、このステッカーをご覧になったうえで、このステッカーを提示している事業所を利用したいと思いませんか。次の中から、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。



○「『茨城県認知症の人にやさしい事業所』の利用」については、多い順に「3.どちらともいえない」40.9%、「2.やや利用したいと思った」30.0%、「1.とても利用したいと思った」21.6%、「6.その他」3.4%、「4.あまり利用したいとは思わなかった」2.3%、「5.全く利用したいとは思わなかった」1.7%であった。

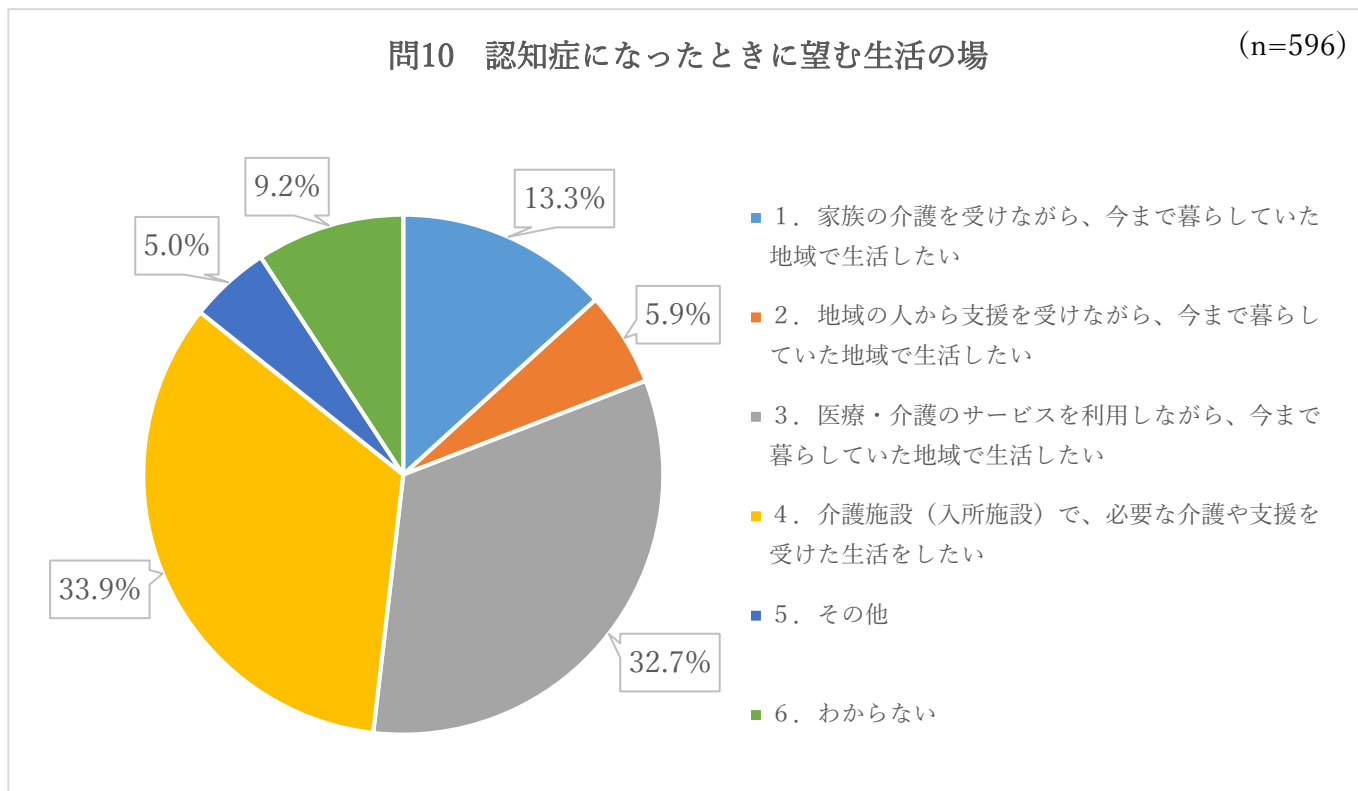
<その他の回答>

- ・ そのステッカーを見たことがない
- ・ 認知症サポーターとして働きたい。
- ・ 仕組み、体制がわからないので判断できない
- ・ 具体的な内容がわからないのに、どうのこうの言えない。
- ・ 認知症の家族が利用できるの良いと感じますが。

など、20件のご意見がありました。

【問 10】（認知症になったときに望む生活の場）

あなたは、認知症になったとき、どこで、どのように生活したいですか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。



○「認知症になったときに望む生活の場」については、多い順に「4.介護施設（入所施設）で、必要な介護や支援を受けた生活をしたい」33.9%、「3.医療・介護のサービスを利用しながら、今まで暮らしていた地域で生活したい」32.7%、「1.家族の介護を受けながら、今まで暮らしていた地域で生活したい」13.3%、「6.わからない」9.2%、「2. 地域の人から支援を受けながら、今まで暮らしていた地域で生活したい」5.9%、「5.その他」5.0%であった。

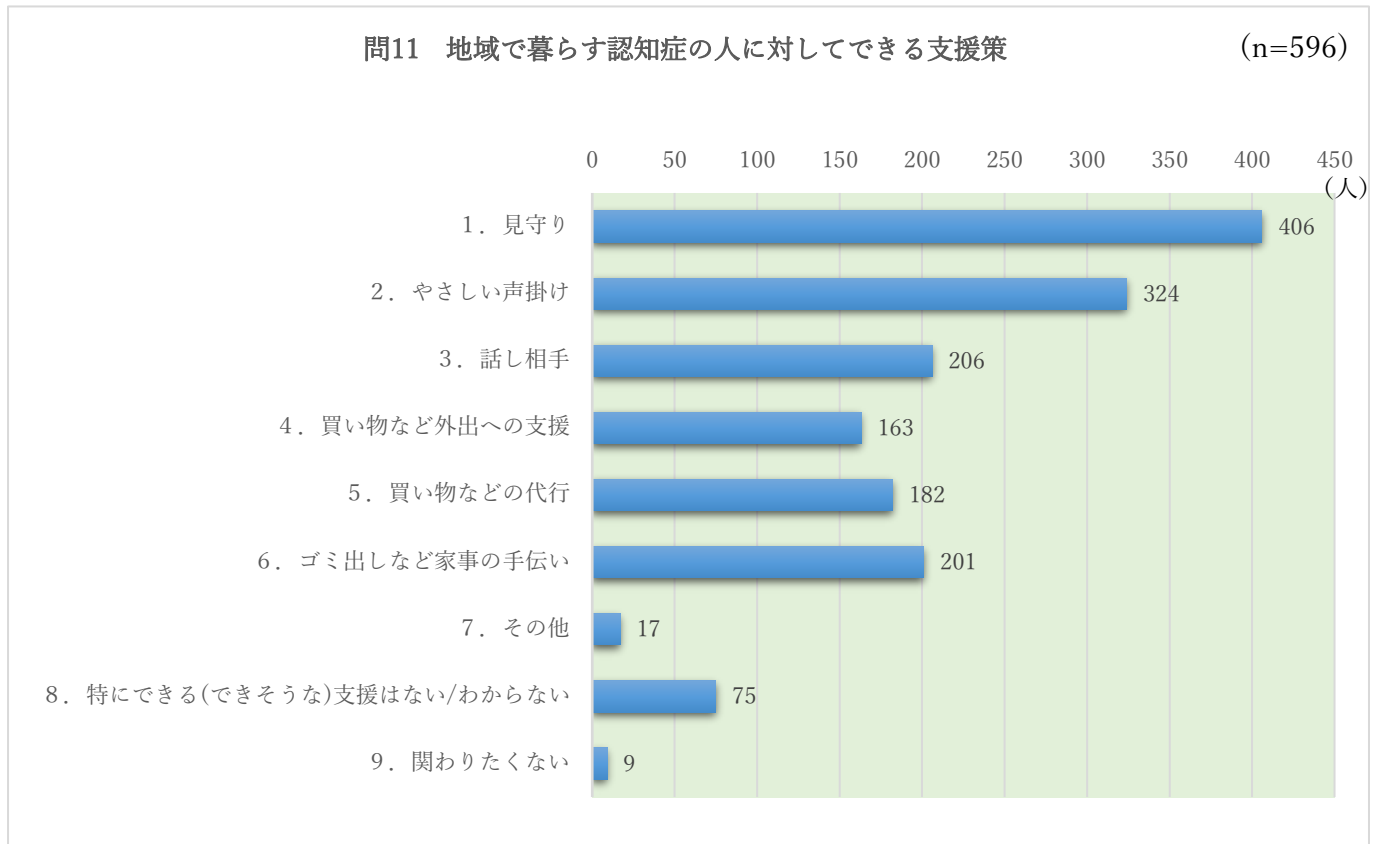
<その他の回答>

- ・ 認知症の状態では生活したいとは思わない。
- ・ 初期の段階は医療・介護サービスを受けながら地域で生活したいが、進んだら入所施設をより望むかもしれない
- ・ 今の暮らしの継続が希望ですが、実際、体調の進み具合の知識がないので難しい。
- ・ 重症度にもよりますが、他人の助けは受けないと思う。
- ・ 迷惑をかけたくないので、尊厳を持って死にたい。
- ・ 現実にならないと分からない。
- ・ 家族の考えを受け入れたい
- ・ 極力周囲や経済的に負担を掛けないようにしたい

など、30件のご意見がありました。

【問 11】（地域で暮らす認知症の人に対する支援策）

あなたは、地域で暮らす認知症の人に対して、どのような支援ができる（できそうだ）と思いますか。次の中から、あなたの考えに近いものを全て選んでください。



○「地域で暮らす認知症の人に対する支援策」については、多い順に「1.見守り」406人、「2.やさしい声掛け」324人、「3.話し相手」206人、「5.買い物などの代行」182人、「6.ゴミ出しなど家事の手伝い」201人、「8. 特にできる(できそうな)支援はない/わからない」75人、「7.その他」17人、「9. 関わりたくない」9人であった。

○見守り、声掛け、話し相手など、簡易的な関わりについての項目（選択肢 1～3）が上位3つを占める結果となった。

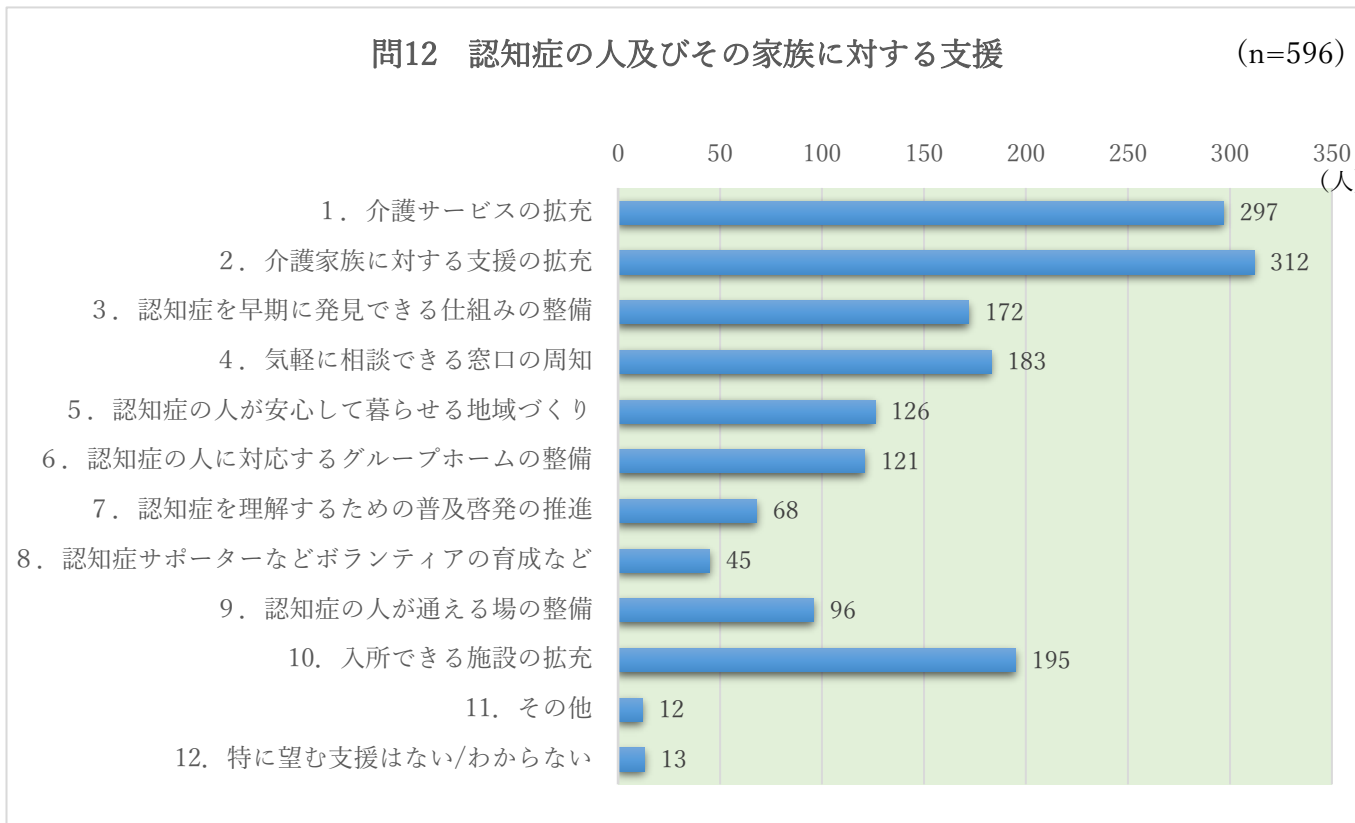
<その他の回答>

- ・認知症は、命に関わる支援なので、医療・福祉・サポーターなどの公の機関・組織からの支援が重要です。
- ・重度の人に関わることは難しい。
- ・どこまで支援できるか難しい。発症前の付き合いの程度によると思う。
- ・認知症の本人より介護している家族を支援している。
- ・認知症の家族の人との何気ない会話や愚痴などを聞いたり、必要なことを聞いたりする。
- ・外出時の送迎支援
- ・ボランティアではなく、きちんと仕事として、地域で貢献できる人を雇う。

など、17件のご意見がありました。

【問 12】（認知症の人及びその家族に対する支援）

あなたは、認知症の人や認知症の人がいる家族に対して、どのような支援を望みますか。次の中から、当てはまるものを3つ選んでください。



○「認知症の人及びその家族に対する支援」については、多い順に「2. 介護家族に対する支援の拡充」312人、「1.介護サービスの拡充」297人、「10.入所できる施設の拡充」195人、「4. 気軽に相談できる窓口の周知」183人、「3.認知症を早期に発見できる仕組みの整備」172人、「5.認知症の人が安心して暮らせる地域づくり」126人、「6.認知症の人に対応するグループホームの整備」121人、「9. 認知症の人が通える場の整備」96人、「7. 認知症を理解するための普及啓発の推進」68人、「8. 認知症サポーターなどボランティアの育成など」45人、「12. 特に望む支援はない/わからない」13人、「11.その他」12人であった。

○介護に対する直接的な支援についての項目（選択肢 1～2）が上位 2 つを占める結果となった。

<その他の回答>

- ・ 認知症の人の命の安全が優先で、医療・福祉・サポーターなどの公の支援が適切で、家族との面会も必要である
- ・ 認知症の家族の方が息を抜ける「時間」「場所」等を支援を望む
- ・ 認知の方が入所できる施設が少ない。また医療行為（人工肛門、人工膀胱）、インシュリン自己注射が必要だと思う。
- ・ 薬の開発
- ・ 社会と関わっていける場（仕事）の拡充。与えられるだけでなく役に立つことも満足感につながる。
- ・ 軽度な認知症でも県や市町村で支援していただきたい。

など、12 件のご意見がありました。

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・認知症への関心は高く、理解したいと考える人が多いことが分かったため、認知症への県民の理解を深めるため、普及啓発や認知症の本人の発信支援を行うことが重要と考える。
- ・認知症の人に対する支援は、医療や介護サービス等の拡充を希望する人が多いため、容態に応じた適切な支援が受けられるよう、医療・介護従事者等の人材育成や、地域の多様な主体が連携した支援提供体制の構築に努める。
- ・「認知症サポーター」については、肯定的、否定的な意見のいずれもあったため、関心を得られるよう認知症サポーターの活動状況の情報発信を行い、「やさしい事業所」については、好意的に捉えている人が多いが、認知度が低いため、積極的な広報活動を行い、認知度の向上に努める。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：令和5年8月21日（月）～2023年9月3日（日）

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：987名（県内在住者のみ）

回収率：60.4%（596名）

回答者の属性：以下の通り。

		人数（人）	比率（%）
全体（n）		596	100.0%
地域別	県北	55	9.2%
	県央	218	36.6%
	鹿行	40	6.7%
	県南	232	38.9%
	県西	51	8.6%
性別	男性	267	44.8%
	女性	329	55.2%
年代別	16歳～19歳	2	0.3%
	20歳～29歳	23	3.9%
	30歳～39歳	76	12.8%
	40歳～49歳	164	27.5%
	50歳～59歳	159	26.7%
	60歳～69歳	104	17.4%
	70歳以上	68	11.4%
職業別	自営業	51	8.6%
	会社員	213	35.7%
	団体職員	25	4.2%
	公務員	24	4.0%
	主婦・主夫	143	24.0%
	学生	7	1.2%
	無職	74	12.4%
	その他	59	9.9%

(2) 担当課

茨城県保健医療部健康推進課地域包括ケア推進室認知症対策担当

電話：029-301-3333 E-mail：care2@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。